

第 33 回 / 2013 年

児童図書館員養成専門講座募集要項

目 的

公共図書館の児童サービスの現場で中心的役割を果たし、指導者・助言者として活躍できる人を養成する。

期 日

前期 2013 年 6 月 24 日(月)～29 日(土) [6 日間]

後期 2013 年 9 月 30 日(月)～10 月 9 日(水) [9 日間] 10 月 5 日(土)は休み

会 場：主として日本図書館協会

受講資格

司書有資格者であること。かつ、上記の目的に合う、次の条件を満たす人。

公共図書館職員として 5 年以上の経験を持ち、児童サービス担当を 2 年以上経験していること。

もしくは、国立国会図書館国際子ども図書館、小中学校図書館等に所属し、上記の条件に準ずる経験を有すること。

募集人数：20 名程度

応募方法

本人の略歴：氏名、フリガナ、年齢、勤務先（連絡先）所在地、現在の雇用形態および職名、司書資格取得方法および年月日、図書館員としての履歴、そのうち児童奉仕担当履歴も年数がわかるように明記すること。

課題 「児童図書館員養成専門講座受講を必要とする理由」について 40 字×36 行から 40 行（A4 用紙 1 ページ以内・縦置き横書き）にまとめること。

課題 以下に掲げる課題図書を読み、所属する図書館の課題と照らし合わせてどのように考えるのかを、40 字×36 行から 40 行（A4 用紙 1 ページ以内・縦置き横書き）にまとめること。

『児童図書館への道』ハリエット G. ロング著 友野玲子訳 日本図書館協会
（字数不足あるいは字数超過は原則として審査対象とならないので注意すること）

上記、を 4 月 22 日（当日必着）までに、日本図書館協会児童図書館員養成専門講座係宛に送ること（メールの場合は添付ファイルで下記アドレスまで）。

受講者決定通知：5 月中旬に本人宛に通知する。

受講者の決定は、児童青少年委員会の書類審査による。受講決定後、必読図書と各科目の課題を通知する。

参加費：日本図書館協会個人会員 4 万円，個人会員外 5 万 5 千円

修了証：全講座を受講した者に修了証を発行

主 催：社団法人日本図書館協会

〒104-0033 東京都中央区新川 1-11-14

03-3523-0811 E-mail : zasshi@jla.or.jp)

後援（予定）：全国公共図書館協議会

第33回(2013年)児童図書館員養成専門講座カリキュラム(予定)

前期

		午前(9:30~12:30)	午後(1:30~5:00)
6月24日	月		開講式 坂部 豪
25日	火	児童奉仕の運営・年間計画	川上博幸
26日	水	児童奉仕の実際(1) 乳幼児サービス	島本まり子
27日	木	子どもの文学の基本としての昔話	松岡享子 おはなしの実演
28日	金	図書館の魅せ方	押樋良樹 ブックトークの実演
29日	土	児童図書の編集・出版 別府章子	メディアと子どもの発達 谷村雅子

後期

9月30日	月	児童資料(1) 科学の本と科学あそび	塚原 博
10月1日	火	児童資料(2) 外国の児童文学	早川敦子
2日	水	児童資料(3) 日本の児童文学	宮川健郎
3日	木	児童奉仕の実際(2) ストーリーテリング	内藤直子
4日	金	児童奉仕の実際(3) レファレンス	東京都立多摩図書館&(依頼中)
6日	日	児童奉仕の実際(4) ブックトーク	杉浦弘美
7日	月	児童資料(4) 絵本	矢野 有
8日	火	児童奉仕の実際(5) 選書・蔵書構成	杉岡和弘
9日	水	児童奉仕の実際(6) 障害のある子どもたちへのサービス 山内 薫	研修の自己評価とまとめ 坂部 豪

第32回児童図書館員養成講座受講生の感想から

- ・図書館や業務を離れて、様々な講義を受講することができ、とても新鮮だった。大学は自然科学系の学部だったため、文学の講義を受けたことがなく、講義の雰囲気や、学問としての考え方、とらえ方等が非常に興味深かった。大学の先生だけでなく、現場の職員、デザイナー、編集者等、様々な立場の講師がおり、それぞれのお話を一挙に聞く機会はなかなかないと思った。講師の図書館や本に対する深い愛情と情熱を感じる、密度の濃い研修だった。
- ・研修を受けている時は、必死にメモを取り、吸収しようと勉強しましたが、職場に帰ってきてからの方が、研修で学んだことはこういうことだったのかと発見できることが多くありました。

研修で先生や受講生の仲間から教えてもらった知恵を実践し、教えていただいたことの多さを実感しています。一日しっかり仕事を離れて研修をうけるということはなかなかできないことなので、とても濃厚な時間を過ごせて、大変でしたが楽しかったです。講義と研修仲間を通して、自分の足りない部分もよくわかりました。職歴が長くなると日常に流されてしまうことも多いですが、この研修で初心に戻りました。また、自分だけでは限界があることもわかり、一人で中途半端におこなうのではなく、もっと味方を増やして、良い物を提供していこうと思いました。